

# 学力向上に効果のある取組事例

津久見市立津久見小学校

## ③主体的に学習に取り組む態度の涵養

### 取組の具体①

学校の教育目標の具現化Ⅰ【学びに向かう集団づくりの形成】

〔取組の方針〕

非認知能力である自己指導能力の育成を重要視し、学校の教育目標と連動した児童主体の自治活動を徹底して推進することで、望ましい人間関係の育成を通して、一人ひとりの児童が学ぶ楽しさをもって力をつけていける学びに向かう集団づくりを学校全体で形成することをねらっている。

〔取組のポイント〕

1. 向かうべき方向性の価値の共有を教員と児童が図った上で、行動連携に着手させ、マネジメントサイクルを回させることで、自律的な学習態度の涵養を促していく。
  - (1) 児童会スローガン、学年・学級目標、行事におけるスローガンなど全てにおいて、学校教育目標の合い言葉「つくみ」を意識することの大切さを教員と子どもが共有し、具現化を図っていく。
    - ※「つくみ」の価値付け
      - ①「つ」と「み」は、QUの理論である「ルール」と「リレーション」で価値付け
      - ②「く」は、マネジメント理論で価値付け
  - (2) 日常生活や行事において「つくみ」のどの部分を重点目標としていくのかを考えさせ、重点目標を達成するための具体的なめあてや活動を児童に集団思考を活用して、吟味・決定させて、丁寧に進捗管理を行わせていく。



### 取組の具体②

学校の教育目標の具現化Ⅱ【マネジメント意識の導入】

〔取組の方針〕

ワンランク上の授業を目指して授業を核に、あらゆる行事に質の高い「振り返り(メタ認知)」を追求させることで、学びに向かう力の育成を図るとともに、説明する力を軸に思考力・判断力・表現力等の認知能力の向上をねらっている。

〔取組のポイント〕

1. 説明する力を基盤にした振り返りの力の向上(主に音声言語)
  - (1) 発言の根拠を本文や、生活のルール等に求める「問い」
  - (2) 対話の技能を津久見小聞き方、伝え方を意識させて指導することを大切にしながら、ペア・グループ学習を低学年から積み重ねていく。
    - ・津久見小聞き方・伝え方シートを用いた毎週の振り返り(セルフチェック)
2. 5つの言語意識を大切にしながら明確な「めあて」と連動した「振り返り」の展開(文字言語)
  - (1) 授業や学校行事において徹底してねらいと連動しためあてを設定させることで、目的意識を身に付けさせる。
  - (2) 授業等で互いの「振り返り」を伝え合い、「振り返り」の内容を吟味させることで、方法意識や評価意識を身に付けさせる。
  - (3) 全校集会で学年発表がある度に各教室で振り返りの時間を設定し、学んだことや感想を書いて発表した学年に伝えることで、場面意識と相手意識を身に付けさせる。

